



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

**HARMACY NEWSBREAK**

©じほう2017

株式会社じほう

この通信は会員が直接利用される以外、コピー等による第三者への提供は固くお断りいたします

## 「不動在庫」売買できるアプリ開発、OTCも視野 リブラ 7月から運用、登録や検索は「スマホでスキャン」

調剤薬局を経営するLibra（リブラ、神奈川県）は7月をめどに、薬局間で不動在庫などを売買できるスマートフォン（スマホ）のアプリの運用を開始する。偽造品問題で薬局間の売買記録の厳格化が求められる中、スマホでバーコードをスキャンする形で簡単に医薬品の登録などを行えるのが特徴。医療用医薬品のほか、一般用医薬品（OTC）なども売買の対象にする方向。当初は入会金や手数料などを取らず無料で行い、将来は有料化を視野に入れる。

アプリの名称は「MACE（仮称：メイス）」。「Manage And Cycle Effectively」の略で、調剤薬局を対象に立ち上げる。同社では「近隣の薬局同士で『これいる』『これいない』といった情報を共有できるツールをつくりたい」と考え、同アプリの開発に踏み切った。

この仕組みを利用する会員になるには、保険薬局開設許可書の提示が必要。会員はIDとパスワードを使って利用する。売買の対象品は医療用医薬品だけでなく、一般用医薬品、衛生材料、医療機器などの売買も視野に入れている。同社では「薬局同士の信頼の中で取引ができるものであればいいと思っている」と話す。

不動在庫の医薬品を売却したい場合、スマホのバーコードリーダーで医薬品のバーコードをスキャンすると、自動的にその医薬品の名称、薬価、写真が表示される仕組み。後は医薬品の使用期限や売却したい数量を入力すると登録が完了する。「一番面倒な部分は全てスキャンがやってくれる」（同社）。

一方、購入したい場合は希望する医薬品のバーコードをスキャンすると、売りに出されているその医薬品の出品リストが自動的に表示される。リストは価格が安い順、数量の多い順などの並べ替えも可能だ。また地域で検索することもできる。希望する医薬品があれば、「買い物かご」に入れる。売り手と数量などを交渉できるよう、メッセージをやり取りできる画面もある。

### ●販売価格は使用期限までの残りの月数で設定

医薬品の販売価格は、使用期限までの残りの月数に応じて設定されている。残り12カ月を切った医薬品は薬価の40%引き、2カ月を切ったものは60%引きといった具合だ。

〈次頁へ続く〉

2017年（平成29年）5月22日月曜日

PHARMACY NEWSBREAK 940号

決済は銀行振り込みやクレジットカードなど複数の選択肢の中から選べるようにする。配送は郵送や宅配便など売り手が選んだ方法で買い手側に送る。売買終了後に相手の評価を相互に入力できる評価システムも搭載するという。

アプリは7月中旬をめどに立ち上げる計画で、それまでは自社の調剤薬局で試験運用を行う。同社は現在4店舗を経営。6月には5店舗目の調剤薬局を開設する。

---